

かんきつ、落葉果樹（なし、かき、キウイフルーツ等）
果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

令和6年7月30日
静岡県病害虫防除所長

果樹カメムシ類の餌となるヒノキ・スギ球果の着果量が平年より多く、球果における本虫の寄生数が平年より多くなっています。今後、本虫の飛来に注意し、ほ場で発生を確認したら直ちに薬剤防除を行ってください。

1 発生状況

- (1) ヒノキ・スギ球果の着果量（指数）は、県平均7.1（平年4.4）と平年より多かった（図1、図2）。なお、本虫は球果を餌として増殖するため、着果量が多いと本虫は増えやすくなる。
- (2) ヒノキ・スギ球果における本虫の平均寄生数は、10結果枝あたり6.3頭（平年2.3頭）と平年より多かった（図3）。
- (3) 県内6か所のフェロモントラップにおける7月1～20日の合計雌雄数の平均は、352頭（平年318頭）と平年よりやや多かった（データ省略）。なお、本虫の内訳は、チャバネアオカメムシが338頭（平年310頭）、ツヤアオカメムシが4.9頭（平年4.7頭）、クサギカメムシが9.8頭（平年3.0頭）であった。
- (4) 名古屋地方気象台による1か月予報（令和6年7月25日発表）では、降水量はほぼ平年並だが、気温は平年より高いため、本虫の発生を助長する。本虫が急増し、ヒノキ・スギ球果を吸い尽くすと、新たな餌を求めて果樹園へ早期に飛来し、果実を加害する恐れがある（図4）。

2 防除対策

- (1) ヒノキ球果での本虫吸汁痕数をもとにした予測式（堀、2003）によるヒノキからの離脱予測日（果樹園への飛来予測日）は、9月5～10日頃（地域により異なる）と予想される。ただし、吸汁痕数が最も多い地点での飛来予測日は8月29日頃と予想される。
- (2) 本虫の飛来に注意し、ほ場で発生を確認したら直ちに薬剤防除を行う。成虫の移動範囲は広いため、地域での一斉防除が効果的である。ヒノキ・スギ林の隣接地域（特に中山間地）や台風通過後の圃地では、急激に発生が増加する可能性があるのに注意する。
- (3) 薬剤防除については、静岡県病害虫防除所による「[静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準](#)」を参照する。なお、薬剤の選択に際しては収穫前日数に注意する。
- (4) [静岡県病害虫防除所ホームページ「害虫誘殺グラフ」](#)では、本虫に関する各種情報（予察灯及びフェロモントラップにおける発生状況、ヒノキ・スギ球果の着果量、球果における寄生数、ヒノキ球果での吸汁痕数、果樹園への飛来予測日等）を随時提供しているので参照する。

3 防除上の注意点

不明な点については、病害虫防除所、農林技術研究所果樹研究センター、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

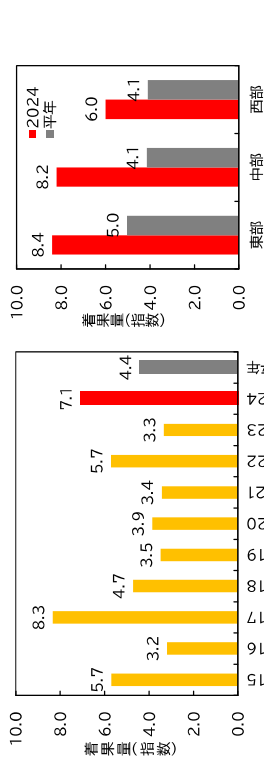


図1 ヒノキ・スギ着果量の年次推移(県平均)

図2 ヒノキ・スギ着果量(地域別)

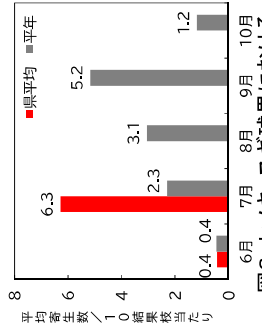


図3 ヒノキ・スギ球果における果樹カメムシ類の寄生数



図4 果樹カメムシ類とその被害果実

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinimusho/1058658/bou-jo/index.html>



茶のカンザワハダニが平年よりも多く発生しています。
今後とも発生が予想されるため、防除の徹底をお願いします。

1 発生状況

8月に県内5地域（富士山麓、静岡市北部、牧之原、小笠・磐田原、川根の各10地点）の巡回調査を実施した結果、樹冠面におけるカンザワハダニの平均寄生葉率が10.0%（平年3.3%）と、平年よりも多かった。（表1）。特に、牧之原地域の平均寄生葉率が16.6%（平年4.0%）、川根地域が11.4%（同1.9%）と多かった。

天敵のカブリダニ類の発生状況は、平均叩き落とし虫数が1.9頭（平年0.5頭）とやや多かった。

気象の1か月予報（8月22日発表）によると、降水量は平年よりも多いものの、気温は平年よりも高いため、今後とも平年よりも多い発生が予想される。

2 防除対策

- （1）発生が認められる茶園では、天敵への影響が少ない薬剤を選択し、直ちに薬剤防除を実施する。
- （2）降雨が少ない場合は急激に増殖する恐れがある。茶園の発生に注意し、早期に防除を実施する。
- （3）薬剤防除については静岡県農業安全使用指針・農作物病害虫防除基準（<https://www.s-boujo.jp>）を確認する。また、不明な点は病害虫防除所、茶業研究センター、及び農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

表1 茶の樹冠面におけるカンザワハダニ発生状況

地域名	富士山麓	静岡市 北部	牧之原	小笠・ 磐田原	川根	県全体
樹冠面	本年 7.5*	8.0	16.6	6.3	11.4	10.0
寄生葉率(%)	平年 3.7	3.6	4.0	3.1	1.9	3.3
発生面積率	本年 60	50	70	60	90	66
(%)	平年 33	35	39	39	27	35

* 数値は10地点の平均値。平年は過去10年間の平均値。

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/horinjinusho/1058658/boujo/index.html>



令和6年度 技術情報第3号
作物全般 ハスモンヨトウ

令和6年10月29日
静岡県病害虫防除所長

**ハスモンヨトウが平年よりも多く発生しています。
今後も11月ごろまで発生が予想されるため、防除の徹底をお願いします。**

1 発生状況

- (1) 令和6年10月に行った巡回調査（トマト、レタス、キャベツ、イチゴ）における平均寄生株率は過去10年間で最も高かった（図1）。
- (2) 果樹や例年発生の見られない茶においても、本種の寄生が確認された。
- (3) 令和6年9月21日～10月20日までの静岡市におけるフェロモントラップによる誘殺数は、平年より高く推移している（図2）。なお、磐田市および御前崎市におけるフェロモントラップ誘殺数は、平年並～少なく推移している。
- (4) 名古屋地方気象台によると、1か月予報（10月24日発表）では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本種の発生を助長する。

2 防除対策

- (1) 初期発生に注意し、卵塊および分散する前の若齢幼虫は捕殺する。
- (2) 薬剤の効果は中～老齢幼虫には低下するため、若齢期に防除する。
- (3) 薬剤感受性の低下を避けるため、作用機構分類コードを参照し、異なる系統をローテーション散布する。薬剤については静岡県農業安全使用指針・農作物病虫害虫防除基準 (<https://www.s-boujo.jp/>) を確認する。
- (4) 施設栽培では、開口部に防虫網を設置し、成虫の侵入を防ぐ。

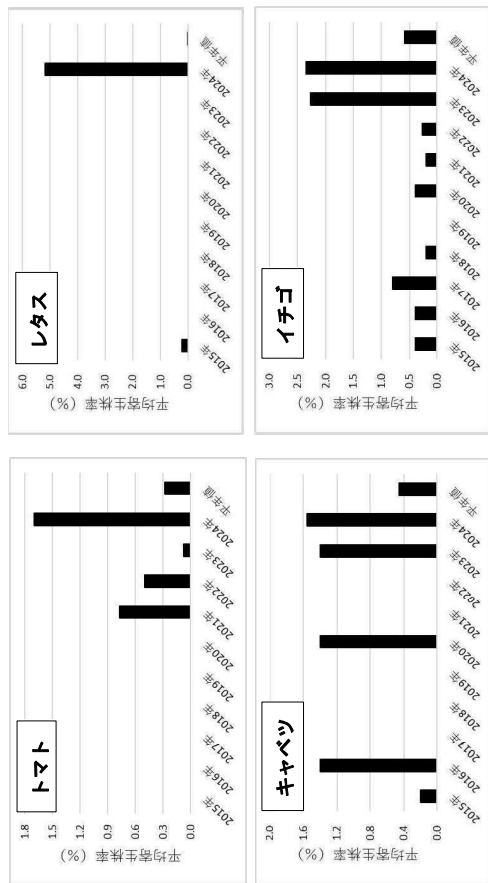


図1 10月におけるハスモンヨトウの年度別平均寄生株率（平年値は過去10年間の平均値）

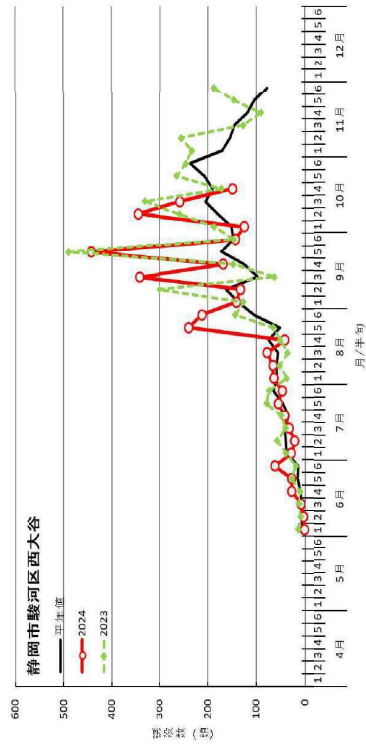


図2 静岡市におけるフェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数



図3 ハスモンヨトウ卵塊（レタス）



図4 ハスモンヨトウ若齢幼虫（レタス）



図5 ハスモンヨトウ老齢幼虫（レタス）

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangvoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>



令和6年度 技術情報第4号 たまねぎ 腐敗病

令和6年11月27日
静岡県病害虫防除所長

たまねぎ腐敗病が多発しているため、防除の徹底をお願いします。

1 発生状況

- (1) 令和6年11月中旬の巡回調査では、タマネギにおける本病の平均発病株率は19.2%（平均0.1%）と、平年に比べ多く、過去10年で最も発病が多かった（図1）。
- (2) 病害虫防除員から本病の発生が平年より多いとの報告があった。
- (3) 本年は8月下旬から9月上旬にかけての長雨による育苗ほ場の冠水や、それに伴う苗の生育不良が報告されている。このため、育苗ほ場で感染・発病が助長され、定植後に感染が拡大したと考えられる。
- (4) 本病は1月以降発生が増加する（図2）。名古屋地方気象台によると、1か月予報（11月21日発表）では、気温、降水量ともにほぼ平年並であるため、本病の発生も平年と同様に増加すると考えられる。

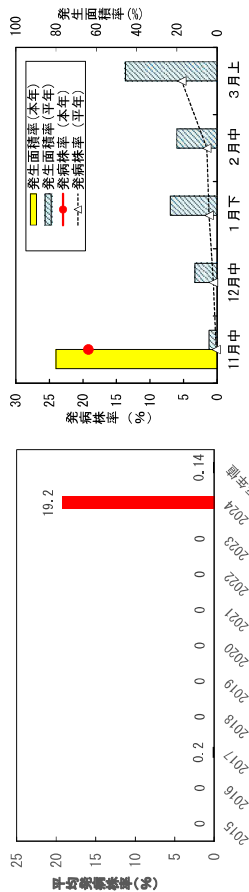


図1 11月におけるたまねぎ腐敗病の年度別平均発病株率（平年値は過去10年間の平均値）

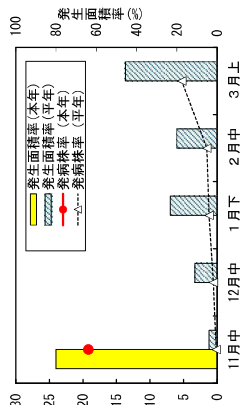


図2 令和6年度におけるたまねぎ腐敗病の発生推移（平年値は過去10年間の平均値）

2 防除方法

- (1) 本病は細菌病であり、強風雨等による傷口から侵入するため、強風雨の前後に薬剤散布を行い、予防や感染の拡大防止に努める。
- (2) ネギアザミウマによる食害も本病の感染を助長するため、発生に注意し、本種の防除を実施する。
- (3) 発病株は感染源となるため、速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (4) 葉身や鱗茎の過度の生育・肥大は本病の発生を助長するため、追肥は適切に行う。
- (5) 気温の上昇とともに被害が拡大することが予想されるため、収穫は例年よりも早めに行う。また、収穫は晴天時に行い、鱗茎を十分に乾燥させる。

- (6) 収穫後の植物残さは本病の伝染源となるため、1ヶ所にまとめ、ビニールで被覆し菌を死滅させるなどして適切に処分する。

- (7) 貯蔵するには、通風をよくして本病の発生を防ぐ。万一貯蔵中に発生した場合は伝染源となるため、発病した鱗茎を速やかに貯蔵場所から持ち出して適切に処分する。

- (8) 薬剤防除については、静岡県病害虫防除所による「[静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準](#)」を参照する。

3 防除上の注意点

- (1) ネギ、ラッキョウでも本病による病害発生が報告があるため、感染拡大に注意する。
- (2) 不明な点は、病害虫防除所、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

<参考資料>



図3 葉身及び葉鞘部位の病徴



図4 鱗茎の被害

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/noriniimusho/1058658/boujo/index.html>



令和6年11月27日
静岡県病害虫防除所長

いちごの炭疽病が例年よりも多く発生しています。
今後とも被害の発生、拡大の恐れがあるため、防除の徹底をお願いします。

1 発生状況

- (1) 令和6年11月中旬に行ったいちごの巡回調査では、炭疽病の平均発病株率は2.7%（平年1.4%）、発生面積率は36.7%（平年23.7%）と平年より発生が多かった（表1）。
- (2) 同様に、地域別の発病株率及び発生面積率は、東部地域では0.6%（平年1.9%）及び20.0%（平年27.0%）、中部地域では3.0%（平年0.7%）及び30.0%（平年16.0%）、中遠地域では4.4%（平年1.6%）及び60.0%（平年28.0%）と、中部及び中遠地域での発生が多かった（表1）。
- (3) 本年は11月までの気温が平年より高く推移しており、育苗ほで保菌した潜在感染株の発病が助長されたと考えられる。

2 防除対策

- (1) ほ場の見回りを徹底し、発病株や発病が疑われる株の早期発見と除去に努める。春先、気温の上昇とともに発病が進展する恐れがあるため注意する。
- (2) 発病株は培土も含めて抜き取りほ場外へ出す。発病残さは肥料袋などに入れ、残さ重量の半分程度の水を添加したうえで密閉し、嫌氣的発酵処理を行い処分する。冬期の場合、殺菌に2ヶ月程要する。
- (3) 本病原菌は水滴の飛散等によって伝染する。薬剤散布も伝染を助長する可能性があるため、殺菌剤のみの散布、感受性低下の疑われる剤（MBC殺菌剤（FRAC:1）、DMI殺菌剤（FRAC:3）、Qoi殺菌剤（FRAC:11））の散布は避ける（表2）。
- (4) 多発ほ場では、自家採苗した苗は潜在感染している可能性が高いため、親株に用いることは避け、無病苗への更新に努める。また、育苗ほでの感染拡大を防ぐため、水滴が飛散する頭上かん水は避け、株元かん水、チューブかん水を行う等、次年度の対策に努める。
- (5) 不明な点については、病害虫防除所、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

表1 県内各地域のいちごにおける炭疽病の発生状況（11月中旬）

	東部	中部	中遠	県平均
発病株率(%)	本年 0.6 平年 1.9	3.0 0.7	4.4 1.6	2.7 1.4
発生面積率(%)	本年 20.0 平年 27.0	30.0 16.0	60.0 28.0	37.0 23.7

注) 各地域10ほ場、1ほ場あたり50株を調査。

表2 本ほ場で使用できるいちごの炭疽病に対する主な防除薬剤¹⁾

商品名	使用方法	希釈倍数	使用時期	使用回数	FRACコード
ICボルドー66D	散布	100倍	—	—	M1
セイビアーフローアブル20	散布	1000倍	収穫前日まで	3回以内	I2
ベルクートフロアブル	散布	2000倍	収穫前日まで（生育期）	5回以内	M7

1) 静岡県農業安全使用指針・農作物病害虫防除基準 (<https://www.s-boujo.jp/>) に掲載されている薬剤から抜粋

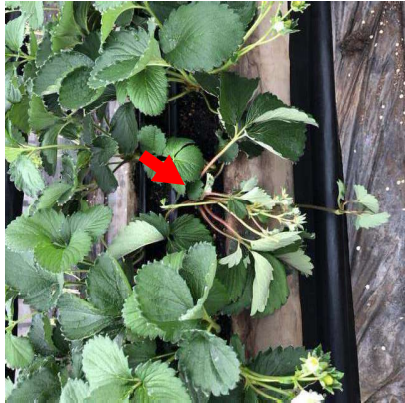


図1 萎凋症状を示した発病株

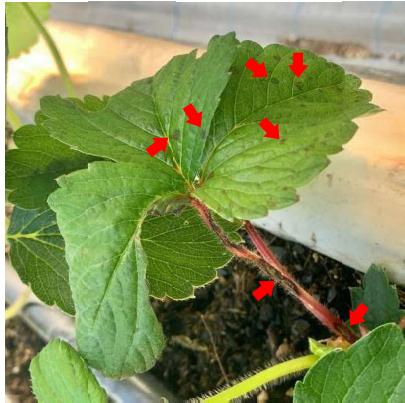


図2 葉と葉柄に発生した病斑

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinimusho/1058638/boujo/index.html>



いちごのアザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ）が平年よりも多く発生しています。今後、既に施設内に侵入した個体が増殖し、果実被害の発生が予想されるため、防除の徹底をお願いします。

1 発生状況

- (1) 令和6年11月中旬のいちご巡回調査では、アザミウマ類の平均寄生株率は5.6%（平年2.0%）、平均発生面積率は53.3%（平年18.1%）と平年より発生が多かった（表1）。なお、この時期としては、1997年の調査開始以降で最も発生が多かった。
- (2) 同様に、地域別では、東部地域の寄生株率及び発生面積率がともに0%（平年0.3%及び9.0%）、中部地域では7.4%（平年4.1%）及び70.0%（平年28.3%）、中遠地域では9.4%（平年1.5%）及び90.0%（平年17.0%）と、中部及び中遠地域での発生が多かった（表1）。
- (3) 本年は11月までの気温が平年より高く推移しており、施設内への本虫の侵入が助長されている。今後、既に施設内に侵入した個体が増殖し、果実被害の発生が予想されるため注意する。

2 防除対策

- (1) 本虫は花を好んで寄生する。花における発生状況をよく観察し、本虫の寄生が認められた場合は少発生うちに防除する。また、必要のない花は摘み取る。
- (2) 施設内外の雑草や花き類は、本虫の発生源となるため除去する。
- (3) 天敵製剤を利用する場合は、天敵に対して影響の小さい薬剤を選択して防除する。
- (4) 薬剤防除については、病害虫防除所による「[静岡県農業安全使用指針・農作物病害虫防除基準](#)」を参照する。なお、薬剤の選択には収穫前日数に注意する。

- (5) 不明な点については、病害虫防除所、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

表1 県内各地域のいちごにおけるアザミウマ類の発生状況（11月中旬）

	東部			中部		中遠		県平均	
	本年	0	7.4	9.4	5.6	本年	0	7.4	5.6
寄生株率(%)	平年	0.3	4.1	1.5	2.0	平年	0.3	4.1	1.5
発生面積率(%)	本年	0	70.0	90.0	53.0	本年	0	70.0	53.0
	平年	9.0	28.3	17.0	18.1	平年	9.0	28.3	17.0

注) 各地域10は場、1は場あたりの50株を調査。



図1 ヒラズハナアザミウマ雌成虫
注) 体色：黒褐色、体長：1.3～1.7mm

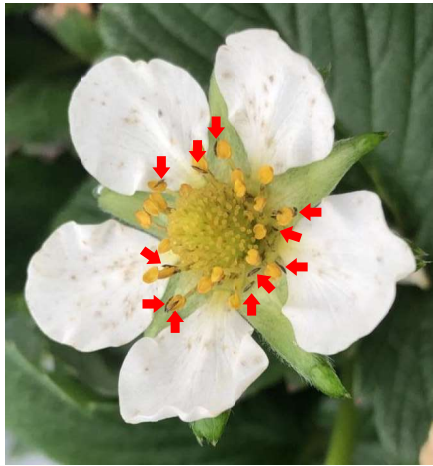


図2 いちごの花に寄生するヒラズハナアザミウマ
注) 矢印：ヒラズハナアザミウマ



図3 アザミウマ類による
いちご果実の被害(褐変症状)

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinimusho/105858/bouio/index.html>

